

# 乗雲

寺報  
第80号

H22.10.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県  
胎内市西栄町 2-8  
TEL0254-43-2419  
FAX0254-43-4560  
広蔵寺  
住職 神田英俊

メール  
otera@kogonji.jp

よい種をまこつ  
よい種をまけば  
よい花が咲き  
よい実がみのる  
よい種をたくさんまこつ  
地球が 花につつまれ  
みんなのしあわせが  
たくさん実のるように  
よいたねをもつともつとまこつ  
いのちあるうちに  
たくさんまいておこつ

昨年暮れに亡くなられた長野市篠ノ井・円福寺東堂、藤本幸邦老師（世寿九十九歳）のつくられた詩です。戦後の混乱期、親を失った子どもや孤児たちを引き取りわが子同様に育てるとともに、以来恵まれない子どもたちのために身を捧げる活動を続けてこられました。『よい種』とは、仏さまの教え、仏さまの心のことです。老師は子ども達によい種まきをして沢山の仏の子を育てられました。



七月四日仏像ガールの講演会を開催し二百名を超える方に参加いただきました。仏像ガールが出会ったあちこちの仏像を映像で紹介するとともに、仏像に手を合わせ大切さを教えてくれました。私たちの心の中にも仏像がいる、仏さまの教えにそった生き方をしていればその仏像が顔を出す。自身自身が仏像そのものになることができる。心の中の仏像に手を合わせよう。仏の心を持つと。そんな話をしてくれました。

よい種をまくにはまずよい種を育てなければなりません。毎月の写経に十名程参加しています。般若心経を念しながら一字一字、心を整えて仏の示された経を写していきます。まさに「仏の心」で「よい種」を育てています。

修行中に行う寒行托鉢は一年で一番寒いとき、自分自身の鍛錬をしながら周りの人々に仏さまの種をまいて歩いていくのです。僧侶になるには道場での修行も大切ですが、一般の信者の方は霊場巡り、寺院参拝、仏教講演会、仏教行事等の参加によって仏教の知識を得、それぞれの心の中のよい種を育て、そのよい種を今度、はまかなければなりません。周りの人に優しい声をかける、どんな人にも思いやりを持って接する、毎日の積み重ねが心の種を育て、やがて美しい花を咲かすことになりまます。そしてまたその美しい花からよい実がみのり、この世のしあわせが訪れます。花にも人にもやがて終わる命があります。たった一つしかない命、美しい心の花を咲かせましょう。

## 平成二十二年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十一年
三回忌	平成二十年
七回忌	平成十六年
十三回忌	平成十年
十七回忌	平成六年
二十三回忌	昭和六十三年
二十七回忌	昭和五十九年
三十三回忌	昭和五十三年
五十回忌	昭和三十六年
百回忌	明治四十四年

\* 今年の年回忌のご案内は、昨年十二月に正当の各家に通知いたしております。

\* 日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお願いたします。

「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌となる。